第4章　小城市がめざす協働の姿

●協働を進めるために

★市民一人ひとりが何か地域のことにかかわっている。
＝市民一人ひとりが必要とされているまち。

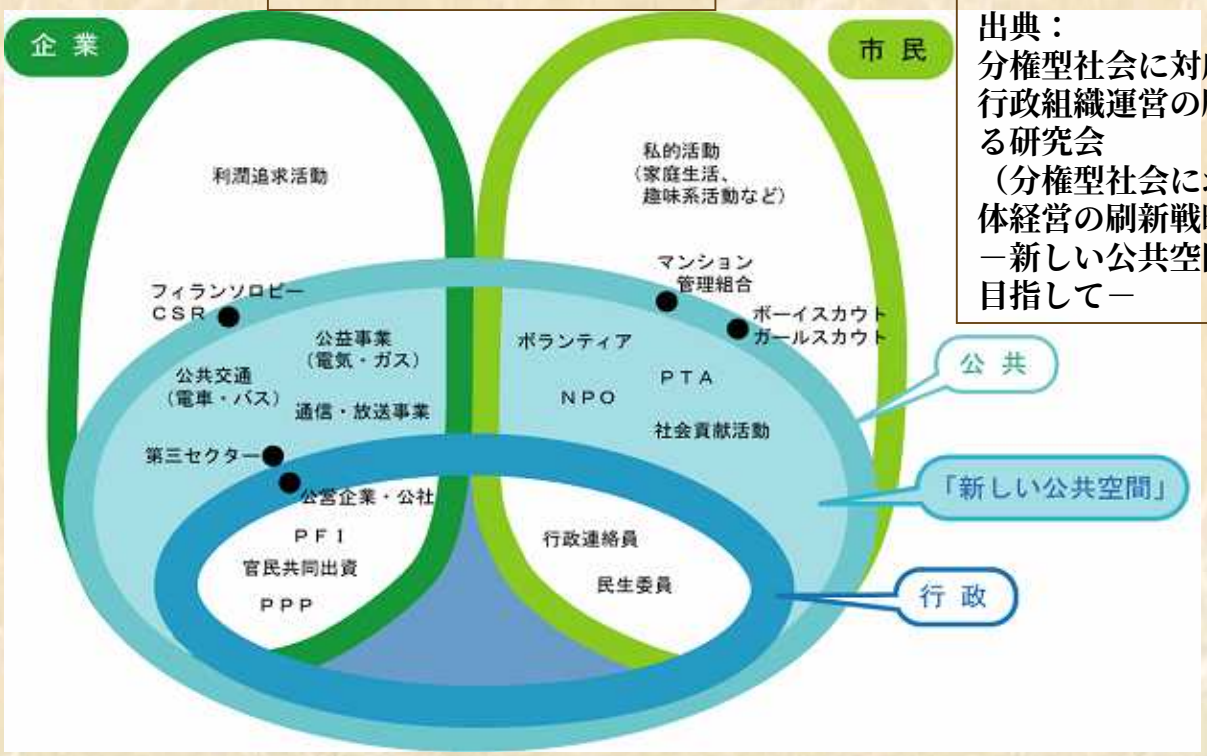
市には、財政的制約もあるため公平性、平等性が課され、市民一人ひとりの豊かで安心な暮らしの課題に対応することが困難です。それに対し、ＣＳＯなどの活動は、柔軟に、臨機応変に対応することができます。

そういう身軽に動ける力が小城市内のあちこちにあれば小城市が地域力をつけていく、というイメージです。

市民であるあなたが、市民活動団体に参加してサービスを提供する側になれるのです。（市民の少しずつの取組みで地域やまちは変わっていきます。）

あなたにあう協働のスタイルで取組みをはじめてみましょう。

新しい公共空間の形成



出典：
分権型社会に対応した地方行政組織運営の刷新に関する研究会
（分権型社会における自治体経営の刷新戦略）
－新しい公共空間の形成を目指して－

あたなにあう協働のスタイルを考える。

これからは、地域の課題を解決する手段として「市民協働」の取組は、必要です。

皆さん一人ひとりが地域で「協働」について考え、その視点を持ちながら生活していくことが今後の小城市づくりを大きく左右することと思います。

でも、すべてを「協働」でというのは、難しい面もあります。

市民一人ひとり自らが、地域の課題に対して、気づいて行動を起こし解決に向け取組んでいくことが基本です。

どのような事業から「協働」を考えていくのか、つなげていくのか具体例から考えていきましょう。

実は、皆さんがすでにやっていることだということが見えてきます。

市も協働の考え方を常に持ち、市内で実施されている活動を市民活動団体とともに協働していく必要があります。

①市以外で取組んだ方がニーズに合うと思われる事業	
考え方	市が行う事業は、どうしても公平性・平等性が確保される必要があります。より実態に合う形での事業実施が必要です。それぞれの専門性を活かした柔軟な対応が期待できます。
例えば‥	健康づくり、地域防犯、防災、通学路の安心・安全など
②みんなで取組んだ方が、より充実した内容となる事業	
考え方	まちづくりは、市民皆さんの参加があって初めて多彩な取組みと独自性を発揮できるもので、参加のきっかけとなる「場」づくりとなり、多くの方の参加が期待できます。
例えば‥	地域の祭り、河川清掃など
③市や企業がこれまで取組んだことがない事業	
考え方	市民活動団体が市や企業に先がけて実施し、社会に貢献している事業があります。それらのノウハウを互いに発信し、分かち合うことでより充実した事業が期待できます。
例えば‥	介護保険事業など

市民・CSO・市の姿勢と役割

情報の共有化？

環境の整備？

人材の育成？

機会の拡大？

相互の意識改革？

協働が地域の諸課題を解決する手段ということを理解し・・・・

＜市民がすべきことは？＞

情報面
- ●市やCSOの情報を集める。(市政に関心をもちます。)
- ●情報を発信する。（知ってもらう、呼びかける）
- ●パブコメ、アンケート、公募委員など積極的に関わりを持ち参加する。

人材面
- ●同じ思いを持つ仲間を増やす。
- ●市や他人にまかせっきりにしないで責任を持ち行動する。

資金面
- ●自分達で課題解決に向け、取り組む事に努める。

＜CSOがすべきことは？＞

情報面
- ●地域情報を集め、行政に伝える。
- ●活動を理解されるよう、情報を発信する。

人材面
- ●自らもサービスの提供者になれるという意識を持ち組織力を向上させる。

資金面
- ●自助努力により、独立した経営と管理を行う。

★市は、次のような現状認識を切り換える。

○市自らが行った方が、良いサービスが提供できると考えている。
○市民と話し合う場をもとうとしていない。
（市民や現場の意見を大切にしていない。）
◎市民に役に立つ人＝市職員という認識が薄い。
○縦割り意識が強く、横断的に協力し、意思形成することができていない。
○市民に対して、必要な情報をきちんと出していると思っている。

＜市がすべきことは？＞

情報面
- ●市民の意見をよく聞く。
- ●行政情報を分かりやすく公開する。(透明性)
- ●市民活動に関心を持ち、広く紹介する。
- ●各課の繋がりを密にする。
（連携・協力意識を高める。）

人材面
- ●市民と一緒に考える機会をもつ。
- ●人材発掘と育成に力を入れる。

資金面
- ●資材及び場所の円滑な利用と提供を行う。
（話し合いの場を設ける。）

期待される姿勢として・・・

市民を信頼し、任せ常に市民起点の考えをもち、市民との協働を意識するようになります。

小城市協働の展開に向けて
「５EYE（ﾌｧｲﾌﾞｱｲ）運動」

※５つの“あい”とは？・・・・
協働をすすめるために市民のまなざし＝ＥＹＥを大切にし
５ＥＹＥ運動　（５つのまなざし）運動を展開します。

①笑顔であいさつを交わし
（あい）
EYEましょう。

⑤課題と成果を見つめ
（あい）
EYEましょう。

「和で織りなす美しい小城市」を愛しましょう！

②互いに認め
（あい）
EYEましょう。

④みんなで一緒に助け
（あい）
EYEましょう。

③みんなで一緒に広め
（あい）
EYEましょう。

市民の“まなざし”を大切にします。

協働とは、お互いの信頼感(納得と共感)の上に成り立つものです。
これまで述べてきたことを踏まえ、市は市民のまなざしを大切にしながら市民がつくる市民活動団体との両輪の“協働”により総合計画の基本目標である「和で織りなす美しい小城市」づくりを進めます。

協働に向け、みんなで一歩ずつ進みましょう！

市民は、地域の課題と考えられることやそれらに関して取組んでいる内容（情報）をみんなで共有し、広く理解されるよう伝えることが大切です。

【地域内での取組み】

伝えるためには、市民同士隣近所で話し合い（井戸端会議など）を行い、「みんなでやる」という連帯感とお互いさまの意識を持ち、共通の認識を深めていく機会を増やしていく必要があります。

そのことにより、個々の考えと理解が進み、目的を達成するための組織化や、それぞれの活動が地域の力として結集することとなります。

【地域外への発信】

さて、その課題は、取組んでいる地域のみに該当することでしょうか？市内その他地域でも必要とされていることではないでしょうか？その取組みを広く市民に伝える必要があります。

市に伝えること（提案すること）、そして市民への伝達手段として市報やホームページを活用し、周知を図ることができます。また、平成20年度にＣＳＯ、いわゆる市民社会組織が集い、地域の課題解決に取組めるＣＳＯの活動拠点としてＣＳＯ市民活動センター「ようこそ」※2を整備しました。その「ようこそ」を活用することで、それぞれの情報を交換、発信できネットワーク化を促すことができます。

ようこそ！

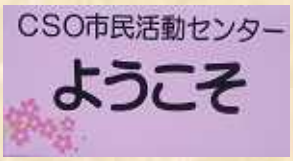
情報は、
①自ら進んで出向いて
　つかみましょう。
②自らの活動を話し合いの場へ
　出向き伝えましょう。

「ようこそ」は、地域の窓口である公民館内にあるということで地域に根ざした老人会や婦人会といった地縁組織や社会教育団体などとの情報共有ができ、地域の諸課題解決に向け、連携した新たな取組みに発展することが期待されます。

地域のたくさんの地縁組織同士が交流する場としての公民館は、これから時代に合った新たな視点を取り入れ、その活用を広げる必要があります。

「ようこそ」を活用することで 中間支援組織※3を介し、団体同士また市と団体との新たな出会いが始まります。

出会い⇒交流⇒活動の場として、お互いに協働について共通理解を進め、協働事業への第一歩を踏み出して行くこととなります。



拠点（西側より）

小城公民館全景

※2　*ＣＳＯ市民活動センター「ようこそ」*
所在地：小城市小城町１７６番地２　小城市小城公民館内

平成20年度佐賀県ＣＳＯ活動拠点整備事業の補助で整備されたＣＳＯ及び中間支援組織の活動拠点です。
ＣＳＯ同士が交流し、お互いの活動情報を得るとともに活動に関する相談を受けることや自らの情報を発信できる、すべてのＣＳＯが気軽に利用できる情報発信基地的役割を持つものです。

※3　*中間支援組織とは*
地域に根づいた活動や課題解決を目指す活動などを行なうCSOが必要とする「資金を得るための情報や活動に際し必要な情報など」を紹介したり、個々の活動に応じた「助言」や「相談」など様々なCSO活動を多様な面から支援する民間の組織です。